



魔法のスプーン

【月の文学館】

芳田尚哉

魔法のスプーン

熱っぽく重い体でなんとかコンビニで買ってきて温めたおかゆを、ふうふうと冷ましながらゆっくりと口に運ぶ。さすがに失敗のない味だ。

スプーンに乗せたおかゆが、体の中にしみわたっていく。

だけど、なんだか物足りない。レトルトなので味は間違いない。だけど、なんだか物足りなく感じる。

子どもの頃は、お母さんに食べさせてもらっていたな……。

今と同じように、スプーンに乗せて、ふうふうと冷ましてもらって、それを口に運んでもらっていた。

その時のおかゆは、とっても優しい味でおいしかった。

すぐに元気になった気がする。

なにが違うんだろうか。

もしかすると、お母さん使っていたのって魔法のスプーンだったのかもしれない。愛情でできた魔法のスプーン。

将来、自分が親になった時も同じようにできるかな。

魔法のスプーン【月の文学館】

<http://p.booklog.jp/book/114693>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/114693>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト